

市では、現在新たなまちづくりの指針となる新総合計画の策定を進めています。計画を審議する総合計画審議会の委員の皆さんに、これからのまちづくりに期待することなどを伺います。



仙台市連合町内会会長
での
傳野 貞雄 さん

プロフィール

地域に恩返しをしたいという思いから、平成20年に泉区高森東連合町内会会長に就任し、まちづくりを推進。現在では全国自治会連合会副会長、宮城県自治会連合会会長も務める

Q 地域での支え合いや町内会活動の強みとは？

A 東日本大震災を経て、町内会の存在意義が改めて見直されるようになりました。災害時における助け合いはもちろんのこと、地域の皆さんが普段から安心して暮らせるまちづくりが求められています。「住みよいまちは、自分たちでつくる」。それを実現できるのが、町内会活動の強みだと思います。

また「人生100年時代」と叫ばれる中、地域でも超高齢化社会への備えが必要です。私たち泉区の高森東連合町内会でも、その取り組みに力を入れており、地域の高齢者同士が支え合う「仕組みづくり」を目指して平成28年に「結いの会・高森東」をスタートさせまし

た。地域包括支援センターや社会福祉協議会、宮城大学とも連携しながら、主に四つの活動を行っています。

まず一つ目が、「みんなの居場所づくり」。誰でも自由に参加できる憩いの場「結びカフェ」を週2回、認知症の方やご家族が参加できる「めいめいカフェ」を月1回開催しています。二つ目が「見守り・安否確認活動」。1人暮らしの高齢者が孤立しないように、各町内会や民生委員児童委員等で見守りのネットワークを構築しています。三つ目が「助け合い活動」。ごみ出しや買い物代行など、家事支援や通院の手助けが必要な高齢者がいれば、お手伝いできる人をコーディネートしています。そして四つ目が「健康体操会」。高齢になっても自分のことは自分でできるように、ずっと元気であることが肝心です。そのために理学療法士監修の体操教室を実施しています。



地域で行う健康体操会は、住民同士の交流を深める機会にもなっています

【仙台市の町内会】

仙台市内には、1,384の町内会があり約407,700世帯が加入しています。町内会加入率は、77.5パーセントとなっています。全国的に昭和30年頃までに発足した町内会の割合が多い中、本市の町内会は昭和40年代以降の発足が半数を占めるなど、比較的新しい町内会が多いのが特徴です。

市では、昭和53年の宮城県沖地震を教訓に、町内会を単位として、自主防災組織の結成を促進。防災資機材の備蓄・点検や防災訓練などの活動を行っており、結成率は99%と非常に高くなっています。互いに助け合う関係の大切さが見直されている今、町内会や自主防災組織など地域コミュニティの役割に大きな期待が寄せられています。



▲町内会での防災訓練

こうした活動には、地域住民の理解や課題意識の共有が不可欠。この先の仙台の超高齢化に向けて、町内会での支え合いはとても重要だと考えています。

Q 新総合計画で伝えたいことは？

A 計画案には、「防災・減災の推進」が挙げられています。地域の防災力を高めるためには、各町内会での自主防災活動や日頃のコミュニケーションが大切です。

誰もが参加しやすい防災活動といえば、町内会での防災訓練だと思います。SBL（仙台市地域防災リーダー）や婦人防火クラブなどと連携して実施しています。また、仙

台市の災害時要援護者情報登録制度により、安否確認や避難誘導などの支援を希望した方には、防災訓練時町内会や民生委員児童委員がサポートします。このように地域住民が一堂に会する防災訓練は、防災意識の向上のみならず、日頃は顔を合わせる機会が少ない人たちの連携や親睦を図る上でも有効。災害への備えと同時に、人と人を結んでくれるイベントでもあると感じています。

防災・減災の他にも、地域での防犯や美化活動など、町内会でできることはたくさんあります。「ここに住んで良かった」と思えるような安心感や環境を育んでいきたいのです。